

平成30年度の
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと
当面の課題について

平成30年10月23日



一般社団法人 **Jミルク**
Japan Dairy Association (J-milk)

1. 地域別生乳生産量の動向

【生乳生産量予測の前提】

・北海道及び都府県の予測値は、平成30年8月までの生乳生産量データに基づき、気温や乳牛頭数等を説明変数とした予測モデル（ARIMAモデル）による推計値を基本に算出。平成30年度の気温は、平年並みで設定。
 なお、9月の北海道の生乳生産については、北海道胆振東部地震の影響を加味するため、関係者ヒアリング等に基づき推計した。

表1：平成30年度の地域別生乳生産量（見通し） (千トン)

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	624	101.2%	330	102.8%	294	99.5%
5 月	648	100.5%	347	102.2%	301	98.5%
6 月	621	101.1%	340	103.7%	281	98.0%
7 月	616	101.0%	345	104.1%	272	97.4%
8 月	607	101.0%	340	102.8%	267	98.8%
9 月	561	96.7%	301	95.4%	261	98.1%
10 月	595	99.0%	324	99.7%	270	98.2%
11 月	574	98.5%	311	98.8%	263	98.3%
12 月	603	98.7%	327	99.0%	276	98.2%
1 月	614	98.8%	332	99.1%	282	98.4%
2 月	564	99.0%	304	99.3%	259	98.7%
3 月	631	98.7%	339	99.6%	292	97.7%
第1 四半期	1,893	100.9%	1,017	102.9%	876	98.7%
第2 四半期	1,785	99.6%	985	100.9%	800	98.1%
第3 四半期	1,772	98.7%	963	99.2%	809	98.2%
第4 四半期	1,808	98.8%	975	99.3%	833	98.3%
上期	3,677	100.3%	2,002	101.9%	1,676	98.4%
下期	3,580	98.8%	1,938	99.2%	1,642	98.2%
年度計	7,257	99.5%	3,939	100.6%	3,317	98.3%

※表は、着色部分が実績、白
 枠部分が予測（平成30年9月
 以降）。以下、全て同様。

【生乳生産量の見通し】

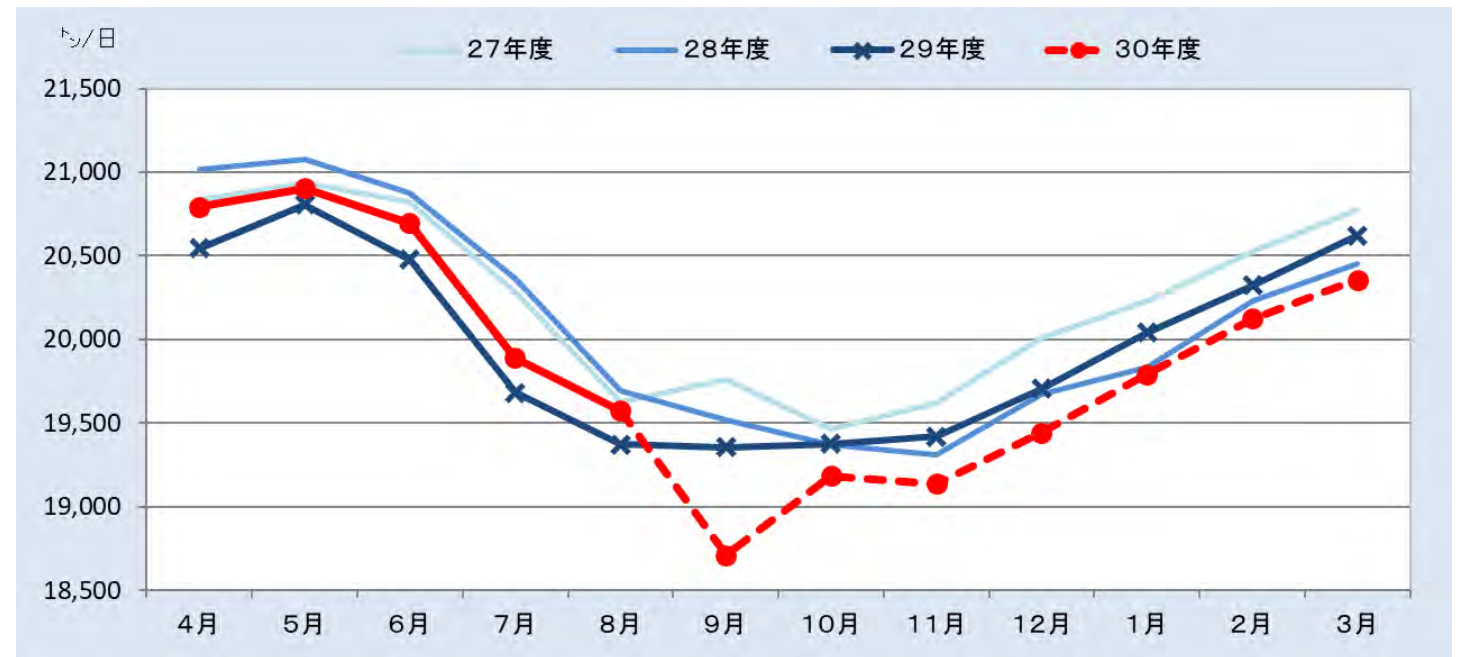
30年度の生乳生産量は、北海道では3,939千トン・前年比100.6%、都府県では3,317千トン・同98.3%となり、その結果、全国の生乳生産量は7,257千トン・同99.5%となる見通しである。

北海道の生乳生産について、北海道胆振東部地震及び全道停電の影響に伴う生乳廃棄などにより、9月は301千トン・同95.4%と、前回見通し（319千トン・同101.3%）より18千トンの減少を見込んでいる。震災の影響に伴い、大幅な減少が懸念されたものの、生産量は回復してきており、下期は1,938千トン・同99.2%と、前回見通し（1,955千トン・同100.2%）より17千トンの減少にとどまる見通しである。

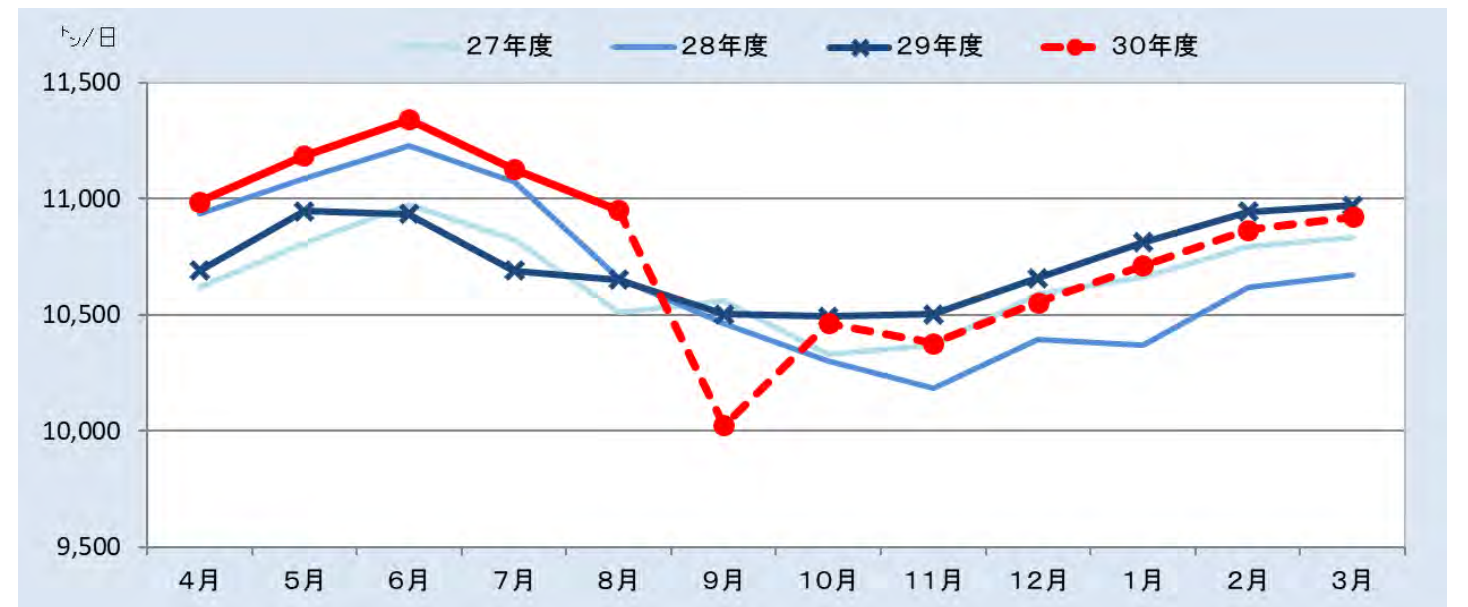
また、都府県においては、7月の記録的な猛暑による生産量への影響が懸念されたものの、8月以降は暑さが和らいだこともあり、下期は1,642千トン・同98.2%と、前回見通し（1,630千トン・同97.5%）より12千トン増加する見通しである。

※全国 7,257千トン・99.5%（前回7/27見通し 7,266千トン 99.7%）
 北海道 3,939千トン・100.6%（同 3,966千トン 101.3%）
 都府県 3,317千トン・98.3%（同 3,300千トン 97.8%）

グラフ1-1：全国の生産量（日均量）



グラフ1-2：北海道の生産量（日均量）



グラフ1-3：都府県の生産量（日均量）



2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳等生産量予測の前提】

・各々の予測値は、平成30年8月までの生産量データに基づき、気温や平日日数等を説明変数とした予測モデル（ARIMAモデル）による推計値を基本に算出。平成30年度の気温は、平年並で設定。

・なお、9月の各生産量については、北海道胆振東部地震の影響を加味するため、関係者ヒアリング等に基づき推計した。

表2：平成30年度の牛乳等生産量（見通し）

	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	380	98.9%	252	101.0%	7	92.3%	27	93.1%	93	95.8%	93	101.7%
5月	410	99.7%	278	103.7%	7	93.8%	28	92.5%	97	92.0%	95	100.2%
6月	405	99.0%	275	103.1%	7	91.9%	27	89.9%	96	91.7%	93	100.3%
7月	414	98.9%	274	103.0%	7	95.5%	30	91.5%	103	91.5%	92	99.8%
8月	394	98.7%	254	102.8%	8	102.6%	29	91.1%	103	91.7%	89	100.3%
9月	402	96.5%	273	100.3%	8	107.9%	19	61.3%	103	95.9%	89	98.3%
10月	405	99.0%	276	100.5%	8	108.7%	27	89.8%	95	96.9%	90	101.0%
11月	381	99.0%	266	101.7%	8	102.3%	27	97.7%	81	90.8%	85	99.4%
12月	363	98.1%	253	101.4%	9	103.0%	26	97.3%	75	88.2%	83	98.3%
1月	360	96.8%	253	99.9%	8	100.8%	25	95.9%	74	87.5%	87	98.6%
2月	342	97.8%	242	101.2%	7	98.5%	24	95.4%	69	88.4%	83	101.3%
3月	364	97.3%	250	101.4%	8	95.6%	26	95.7%	79	86.7%	94	100.7%
第1四半期	1,195	99.2%	806	102.6%	22	92.7%	82	91.8%	285	93.1%	281	100.7%
第2四半期	1,209	98.0%	800	102.0%	23	101.9%	77	81.7%	309	93.0%	271	99.5%
第3四半期	1,150	98.7%	795	101.2%	25	104.5%	80	94.8%	250	92.2%	258	99.6%
第4四半期	1,066	97.3%	746	100.8%	23	98.2%	75	95.7%	222	87.5%	264	100.2%
上期	2,404	98.6%	1,606	102.3%	44	97.2%	160	86.6%	594	93.0%	552	100.1%
下期	2,216	98.0%	1,540	101.0%	48	101.4%	155	95.2%	473	89.9%	523	99.9%
年度計	4,620	98.3%	3,146	101.7%	92	99.3%	314	90.6%	1,067	91.6%	1,074	100.0%

【牛乳等生産量の見通し】

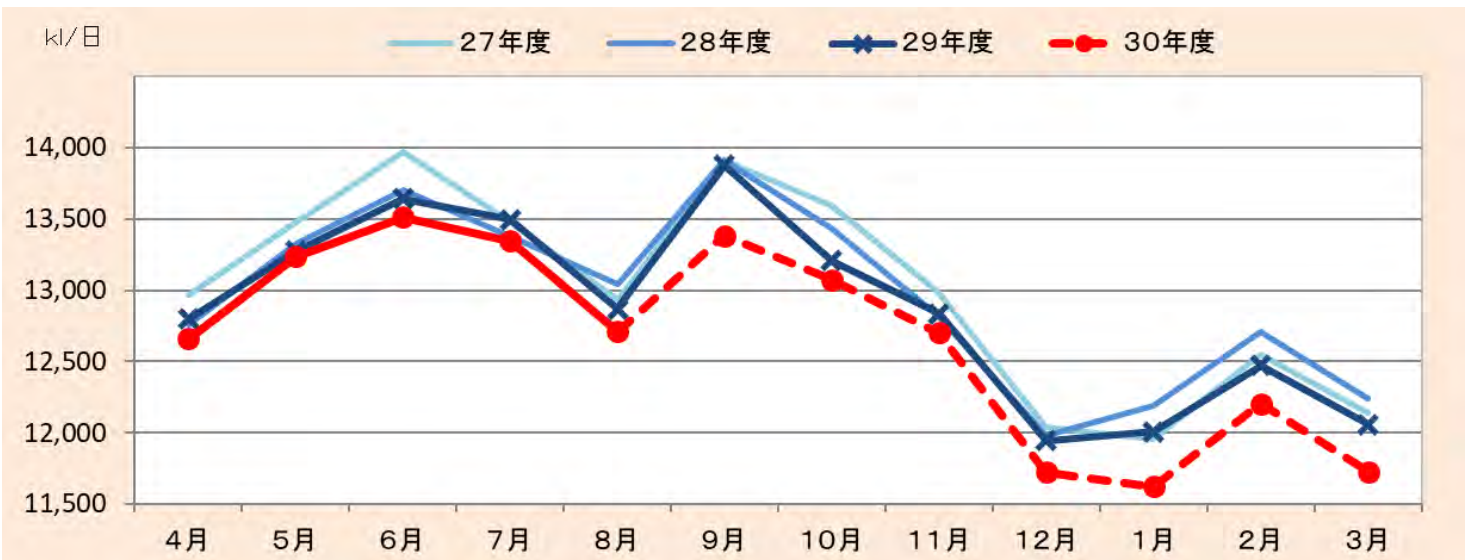
30年度の牛乳等生産量は、「牛乳類」が4,620千Kl・前年比98.3%、「はっ酵乳」が1,074千Kl・同100.0%となる見通しである。

北海道胆振東部地震や複数の大型台風の影響に伴い、9月の牛乳類の生産量は402千Kl・同96.5%と、前回見通し（419千Kl・同100.6%）より減少した。製造品目集約の動きにより、特に成分調整牛乳が大きく減少した。

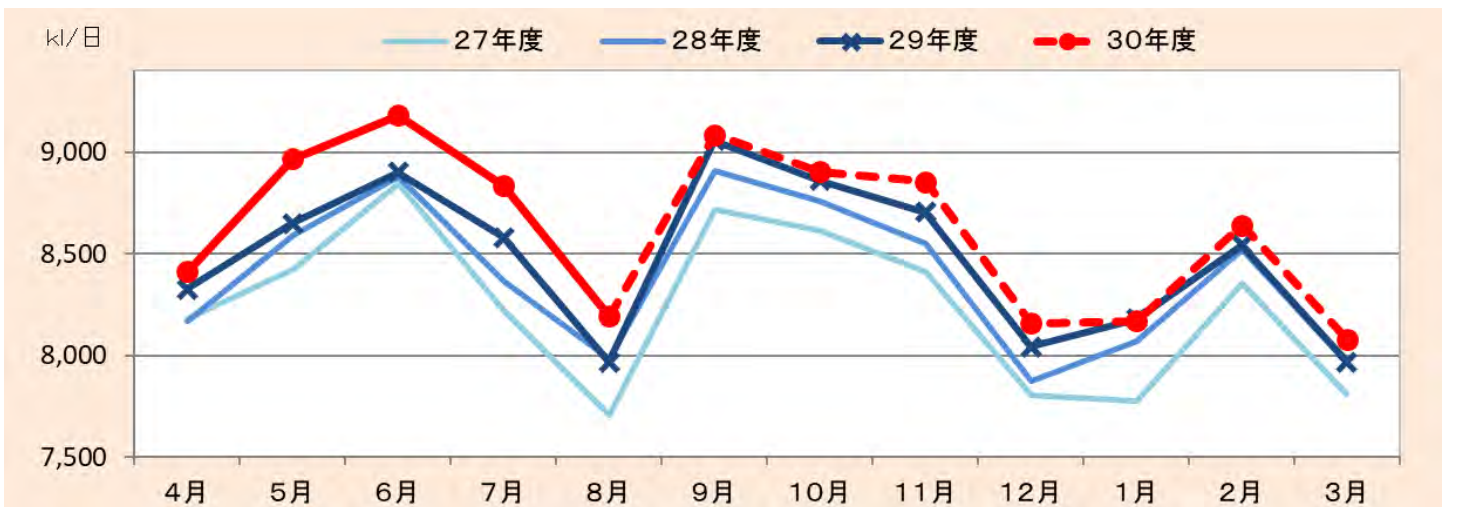
これらの動向は震災後の混乱による一過性のものと見込まれ、今後は徐々に従来のトレンドに戻る見通しである。

※牛乳類	4,620千Kl・98.3%	（前回7/27見通し	4,681千Kl・99.6%）
牛乳	3,146千Kl・101.7%	（同	3,152千Kl・101.9%）
加工乳	92千Kl・99.3%	（同	88千Kl・94.4%）
成分調整牛乳	314千Kl・90.6%	（同	332千Kl・95.8%）
乳飲料	1,067千Kl・91.6%	（同	1,109千Kl・95.2%）
はっ酵乳	1,074千Kl・100.0%	（同	1,081千Kl・100.6%）

グラフ2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



グラフ2-2：牛乳の生産量（日均量）



グラフ2-3：加工乳の生産量（日均量）



グラフ2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



3. 用途別処理量の動向

【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・飲用等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用係数を乗じ算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と飲用等向処理量の差。

表3：平成30年度の生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	624	101.2%	4	98.4%	620	101.2%	331	99.7%	289	103.0%
5月	648	100.5%	4	96.9%	644	100.5%	361	101.6%	283	99.1%
6月	621	101.1%	4	100.0%	617	101.1%	359	101.5%	258	100.5%
7月	616	101.0%	4	101.4%	612	101.0%	357	100.8%	255	101.4%
8月	607	101.0%	4	101.0%	603	101.0%	341	101.7%	262	100.2%
9月	561	96.7%	4	96.6%	557	96.7%	345	96.7%	212	96.6%
10月	595	99.0%	4	98.7%	591	99.0%	356	100.2%	235	97.3%
11月	574	98.5%	4	98.4%	570	98.6%	342	101.4%	228	94.6%
12月	603	98.7%	4	98.6%	599	98.7%	327	101.3%	271	95.7%
1月	614	98.8%	4	98.9%	610	98.8%	329	98.8%	281	98.7%
2月	564	99.0%	4	99.3%	560	99.0%	311	100.1%	249	97.7%
3月	631	98.7%	4	99.0%	627	98.7%	327	99.8%	300	97.5%
第1四半期	1,893	100.9%	12	98.4%	1,880	100.9%	1,051	101.0%	829	100.9%
第2四半期	1,785	99.6%	12	99.6%	1,772	99.6%	1,043	99.7%	729	99.5%
第3四半期	1,772	98.7%	12	98.6%	1,759	98.7%	1,025	100.9%	734	95.8%
第4四半期	1,808	98.8%	12	99.1%	1,796	98.8%	967	99.6%	830	98.0%
上期	3,677	100.3%	25	99.0%	3,653	100.3%	2,094	100.3%	1,559	100.2%
下期	3,580	98.8%	24	98.8%	3,556	98.8%	1,992	100.3%	1,564	97.0%
年度計	7,257	99.5%	49	98.9%	7,208	99.5%	4,086	100.3%	3,123	98.6%

【用途別処理量の見通し】

30年度の用途別処理量は、「生乳供給量」が7,208千トン・前年比99.5%、「飲用等向処理量」が4,086千トン・同100.3%、「乳製品向処理量」が3,123千トン・同98.6%となる見通しである。

なお、「乳製品向処理量」は下期以降、飲用等向が堅調ななか、生乳生産の増産が一巡したことにより、前年を下回り推移する見通しである。

※生乳供給量 7,208千トン・99.5%（前回7/27見通し 7,218千トン・99.7%）

飲用等向 4,086千トン・100.3%（同 4,105千トン・100.8%）

乳製品向 3,123千トン・98.6%（同 3,113千トン・98.3%）

グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：飲用等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



4. 都府県の生乳需給の動向

【都府県生乳需給予測の前提】

- ・「移入量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- ・「脱脂粉乳・バター等向処理量」は、「A-B-C」+「移入量」-「移出量」で算出し、過去5年間の最低数量や直近の需給状況等を加味して算出。

表4：平成30年度の都府県の需給（見通し）

	生乳供給量		飲用等向処理量		生クリーム等向チーズ向		A-B-C	移入量(道外移出量)D		脱脂粉乳・バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	292	99.5%	280	101.2%	13	84.9%	-1	27	107.2%	26	98.0%
5月	299	98.6%	307	101.5%	10	92.7%	-19	37	117.5%	18	88.6%
6月	278	98.0%	305	101.4%	11	103.9%	-38	48	125.0%	11	96.7%
7月	269	97.4%	300	100.2%	11	111.1%	-42	52	119.3%	10	96.5%
8月	265	98.8%	286	102.3%	11	92.3%	-32	49	119.3%	16	96.8%
9月	259	98.1%	293	97.2%	10	102.8%	-45	49	92.5%	5	90.2%
10月	268	98.2%	302	99.8%	11	99.2%	-44	52	106.5%	8	90.5%
11月	261	98.3%	291	100.1%	10	98.9%	-40	46	110.0%	6	95.2%
12月	273	98.2%	276	99.8%	12	98.1%	-15	39	107.7%	24	96.0%
1月	279	98.4%	279	98.2%	10	99.3%	-10	34	100.6%	24	104.7%
2月	257	98.7%	264	99.5%	9	99.6%	-16	33	105.2%	17	99.8%
3月	290	97.7%	275	99.6%	12	98.8%	3	27	102.2%	30	86.6%
第1四半期	869	98.7%	893	101.4%	34	92.7%	-58	112	117.8%	55	94.5%
第2四半期	793	98.1%	879	99.8%	33	101.5%	-119	150	108.9%	31	95.6%
第3四半期	802	98.2%	869	99.9%	33	98.7%	-100	137	108.0%	37	94.7%
第4四半期	827	98.3%	818	99.1%	31	99.2%	-22	94	102.6%	71	95.3%
上期	1,662	98.4%	1,772	100.6%	66	96.9%	-177	262	112.5%	85	94.9%
下期	1,629	98.2%	1,687	99.5%	64	98.9%	-122	231	105.8%	109	95.1%
年度計	3,291	98.3%	3,459	100.1%	131	97.9%	-299	492	109.3%	194	95.0%

【都府県の生乳需給の見通し】

30年度の都府県の生乳需給は、「生乳供給量」が3,291千トン・前年比98.3%、「飲用等向処理量」が3,459千トン・同100.1%となる見通しである。

北海道胆振東部地震や複数の大型台風の影響に伴い、9月の北海道から都府県への「移入量(道外移出量)」は49千トン・同92.5%と、前回見通し(60千トン・同113.0%)から大きく減少した。年度計では、492千トン・同109.3%となる見通しである。

※生乳供給量	3,291千トン・98.3%	(前回7/27見通し	3,274千トン・97.8%)
飲用等向	3,459千トン・100.1%	(同	3,460千トン・100.1%)
移入量(道外移出量)	492千トン・109.3%	(同	498千トン・110.8%)

5. 乳製品需給の動向

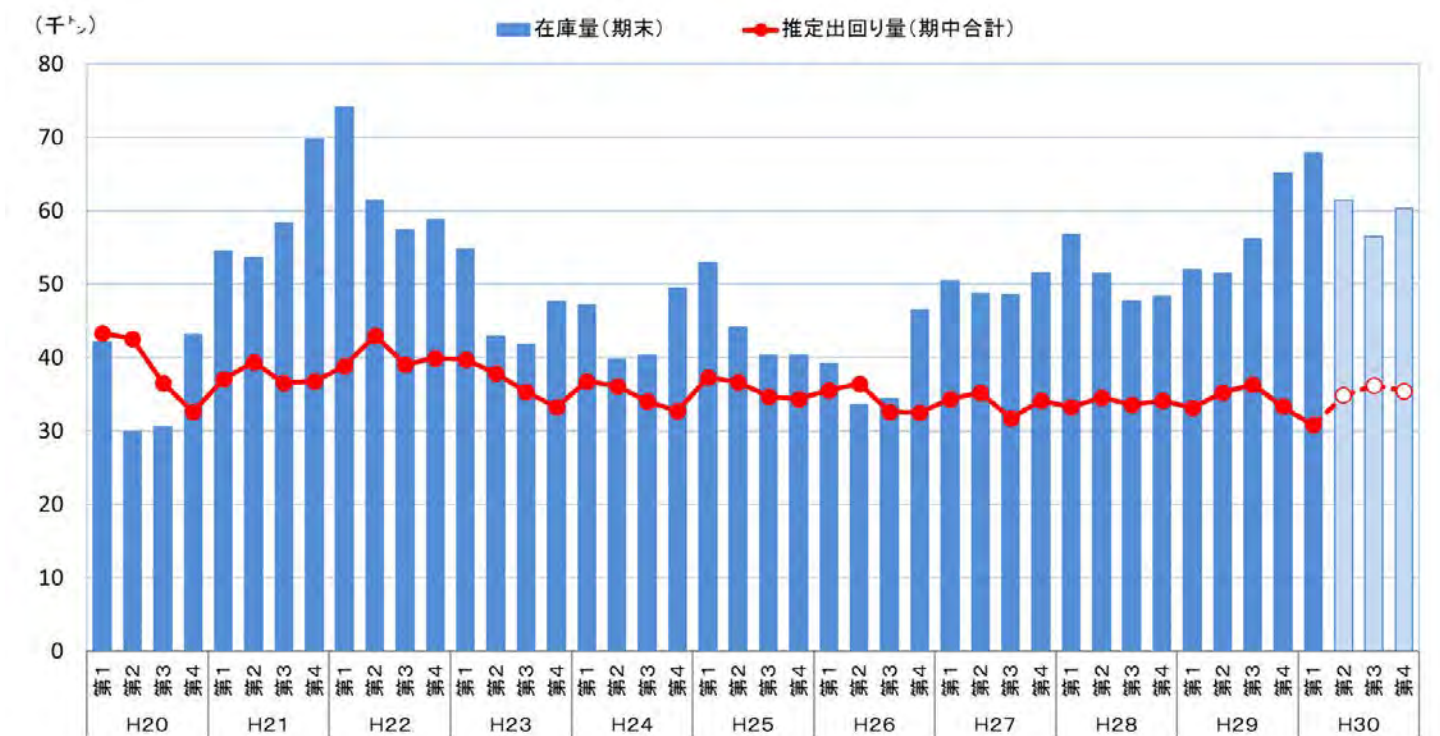
【脱脂粉乳・バター需給予測の前提】

- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、脱脂粉乳・バター等向処理量に製造係数(直近の動向等を反映)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの推定出回り量は、平成30年8月までの推定出回り量データに基づき、代替乳製品の動向等を説明変数とした予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・脱脂粉乳・バターの在庫月数は、前年度の1ヶ月平均消費量を基に算出。

表5：平成30年度の脱脂粉乳の需給（見通し）

	期首在庫量		生産量		輸入売渡し	期末在庫量		推定出回り量		
	A	前年比	B	前年比		C	D	月数	前年比	A+B+C-D
第1四半期	65.1	134.7%	32.1	98.3%	1.4	67.8	5.9	130.4%	30.8	92.8%
第2四半期	67.8	130.4%	25.3	100.0%	3.1	61.4	5.3	119.4%	34.8	98.8%
第3四半期	61.4	119.4%	26.7	88.2%	4.6	56.5	4.9	100.7%	36.2	99.6%
第4四半期	56.5	100.7%	33.1	99.1%	6.1	60.3	5.2	92.6%	35.4	106.3%
上期	65.1	134.7%	57.4	99.1%	4.4	61.4	5.3	119.4%	65.6	95.9%
下期	61.4	119.4%	59.8	93.9%	10.7	60.3	5.2	92.6%	71.6	102.8%
年度計	65.1	134.7%	117.2	96.4%	15.2	60.3	5.2	92.6%	137.1	99.4%

グラフ5：脱脂粉乳の推定出回り量及び在庫量（四半期毎）



【脱脂粉乳需給の見通し】

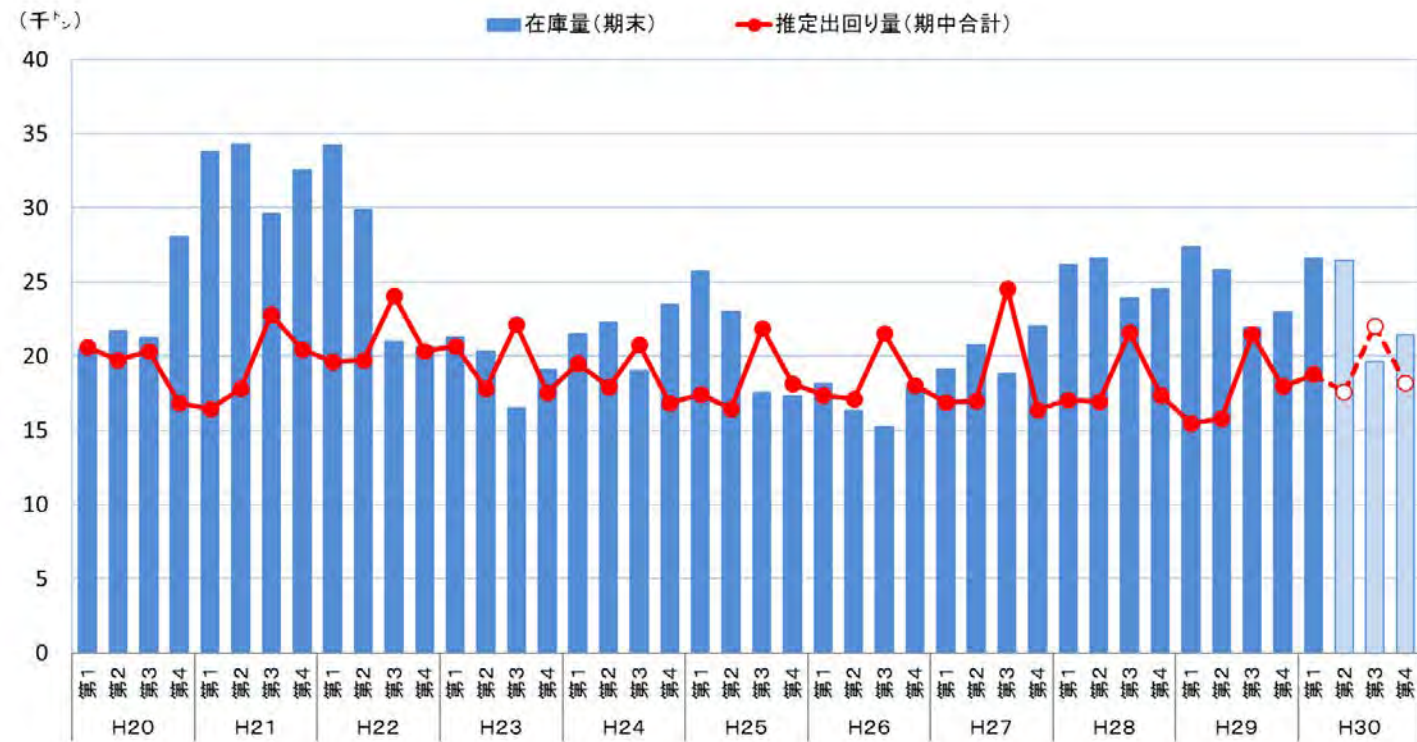
脱脂粉乳については、30年度の実績が117.2千トン・前年比96.4%となる見通し。輸入売渡しとして、今後30年度輸入予定数量(27.0千トン)について、需給に対応した必要量が定期的に売り渡される予定となっていることから、30年度末在庫量は60.3千トン(前年度末比▲4.8千トン)となる見通しである。

※生産量	117.2千トン・96.4%	(前回7/27見通し	116.8千トン・96.1%)
年度末在庫量	60.3千トン・92.6%	(同	60.0千トン・92.1%)
推定出回り量	137.1千トン・99.4%	(同	138.7千トン・100.5%)

表6：平成30年度のバター需給（見通し）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比		C	D	月数	前年比	A+B+C-D
第1四半期	23.0	93.9%	16.6	99.1%	5.7	26.6	4.5	97.2%	18.8	121.2%
第2四半期	26.6	97.2%	12.9	102.7%	4.6	26.5	4.5	102.6%	17.6	111.3%
第3四半期	26.5	102.6%	12.3	91.1%	2.9	19.6	3.3	89.5%	22.0	102.7%
第4四半期	19.6	89.5%	17.1	99.1%	2.9	21.4	3.6	93.3%	18.2	101.2%
上期	23.0	93.9%	29.5	100.6%	10.3	26.5	4.5	102.6%	36.4	116.2%
下期	26.5	102.6%	29.4	95.6%	5.8	21.4	3.6	93.3%	40.2	102.0%
年度計	23.0	93.9%	58.9	98.1%	16.1	21.4	3.6	93.3%	76.6	108.3%

グラフ6：バターの推定出回り量及び在庫量（四半期毎）



【バター需給の見通し】

バターについては、30年度の生産量が58.9千トン・前年比98.1%となる見通し。輸入売渡しとして、今後30年度輸入予定数量（13.0千トン）について、需給に対応した必要量が定期的に売り渡される予定となっていることから、30年度末在庫量は21.4千トン（前年度末比▲1.6千トン）となる見通しである。

※生産量	58.9千トン・98.1%	（前回7/27見通し	58.0千トン・96.5%）
年度在庫量	21.4千トン・93.3%	（同	25.9千トン・112.5%）
推定出回り量	76.6千トン・108.3%	（同	71.8千トン・101.5%）

6. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

(1) 当面する生乳生産への北海道胆振東部地震等の影響及び今後の課題について

9月6日に発生した北海道胆振東部地震により、道内全域で停電が発生し、大半の生産者・乳業メーカーにおいて、搾乳作業、生乳集荷業務、工場の生乳受入・製品製造が滞り、生乳廃棄や工場での仕掛品・製品の廃棄が発生し甚大な被害を被った。

そのような状況のなか、北海道内の生産者、農協、乳業メーカー、ホクレン等の懸命の努力により短期間のうちに平時の集荷体制への復旧が行われたことや、国および酪農乳業関係者が一体となって、迅速な情報共有や対応に努めた結果、需給上の混乱は最小限度に留めることができた。

なお、北海道の生乳生産について、乳房炎による牛体へのダメージの影響が心配されていたが、9月下旬以降のホクレンの受託乳量（速報値）によると前年同期を上回る水準まで回復しており、全道的にはその影響は限定的となっているものと推測される。ただ、今後は、不作となった本年度産の牧草・デントコーンへの自給飼料の切り替えが進むため、それらの生乳生産に及ぼす影響について注視が必要である。

また、近年にあつては、猛暑、台風、集中豪雨、暴風雪などの異常気象、さらには大きな地震が頻発しており、その都度発生地域へ大きな被害をもたらし、生乳の需給や牛乳乳製品の流通への影響も少なくない状況が続いている。こうした状況を踏まえ、引き続き、国内の生乳及び牛乳乳製品の需給と流通の安定を確保するため、今後は、従来にも増した災害への備えや、緊急時の協力体制の構築について、酪農乳業関係者が一体となり検討していく必要がある。

(2) 飲用等最需要期の安定的な需給調整にかかる課題の整理について

現在の生乳及び牛乳乳製品の需給については、生乳生産が前年を下回って推移する中で、引き続き、飲用等向生乳需要が堅調であること、また、バター等の需要期を迎えることから、牛乳乳製品の多様なニーズに対応したバランスのとれた需給調整を進めることが重要となっている。

また、都府県の生乳生産は、暑熱事故の防止の取り組み効果などにより前回見通しよりも減産幅が縮小していることや、乳用牛の0歳（0～11ヶ月齢）頭数が前年を超えるなど、今後に期待が持てる明るい材料が徐々に出てきているものの、当面は減少基調が続く見通しである。こうしたことから、都府県の飲用等向生乳の需給は、北海道からの広域流通生乳へ強く依存する構造が暫くは続くことが想定される。

なお、牛乳類は保存可能な期間が極めて短く、その原料である生乳を毎日途絶えることなく供給することが必要であるため、今後も台風や地震等の発生によっては、ミルク・サプライチェーンへの影響は避けられない。こうした中であつて、飲用等向生乳の供給における特定地域への依存は牛乳類の需給を不安定にすることから、都府県の生乳生産を如何にして増産に転じさせるのか、また、特に需要期における飲用等向生乳及び牛乳等の供給や、需要に対応した国産乳製品の供給を如何に安定的に行うのかについて、課題の整理と対策の検討を改めて行うことが必要である。

(3) 乳製品安定供給への取り組み

北海道胆振東部地震の影響により大きな減少が危惧された北海道の生乳生産が、ほぼ前年並みで推移する見通しであることから、脱脂粉乳・バターの30年度生産量については、前年を下回って推移するものの、前回見通しと同程度の数量が見込まれる。また、30年度の輸入予定数量（脱脂粉乳27千トン、バター13千トン）については、乳業メーカーの努力や需給変化に対応した必要量が定期的に売り渡されることから、今後の乳製品需給は安定して推移する見通しである。

なお、国及び酪農乳業関係者は、当面の生乳生産の状況に注視しつつ、これからの乳製品需要期に向け、市場に対して適時的確な需給情報の提供に努めることが必要である。

バター等の需給及び輸入の状況等について

平成30年10月23日

生乳生産量及び用途別処理量の推移

年度・月	生乳生産量						用途別処理量									
	合計		北海道		都府県		牛乳等向け		乳製品向け		①うちクリーム等向け		②うちチーズ向け		③うち脱粉・バター等向け	
	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)
平成25年度	7,447,032	97.9	3,848,584	97.9	3,598,448	97.9	3,964,647	98.9	3,425,551	96.8	1,297,125	101.6	501,691	103.4	1,602,987	91.9
26	7,330,871	98.4	3,820,359	99.3	3,510,512	97.6	3,910,165	98.6	3,361,201	98.1	1,323,203	102.0	485,976	96.9	1,537,298	95.9
27	7,407,326	101.0	3,900,110	102.1	3,507,216	99.9	3,953,352	101.1	3,398,469	101.1	1,294,200	97.8	454,709	93.6	1,636,386	106.4
28	7,342,475	99.1	3,892,741	99.8	3,449,734	98.4	3,989,455	100.9	3,301,787	97.2	1,282,885	99.1	444,196	97.7	1,548,147	94.6
29	7,290,810	99.3	3,915,799	100.6	3,375,011	97.8	3,983,998	99.9	3,258,009	98.7	1,308,401	102.0	437,783	98.6	1,499,827	96.9
29年 8	600,537	98.4	330,174	99.9	270,363	96.6	327,538	99.6	268,912	97.0	111,053	103.3	35,896	90.3	120,985	93.8
9	580,703	99.2	315,080	100.4	265,623	97.8	349,672	100.2	226,917	97.8	108,162	101.1	34,365	98.4	84,123	94.5
10	600,676	100.0	325,251	101.8	275,425	98.0	347,372	99.1	249,086	101.5	109,966	101.1	30,974	86.8	106,476	107.4
11	582,570	100.6	315,085	103.1	267,485	97.7	329,697	99.8	248,740	101.6	110,037	100.2	31,849	103.3	105,914	102.1
12	610,904	100.2	330,405	102.6	280,499	97.5	316,076	101.3	290,756	99.0	111,240	102.1	37,223	116.0	142,138	94.3
30年 1	621,294	101.0	335,191	104.3	286,103	97.5	324,279	100.9	293,015	101.3	106,177	104.2	38,560	104.7	147,964	103.5
2	569,067	100.5	306,436	103.1	262,631	97.6	303,483	99.2	261,644	102.0	100,284	107.1	38,696	104.0	122,455	104.8
3	639,271	100.8	340,090	102.8	299,181	98.7	319,404	99.1	315,892	102.7	115,791	102.6	43,628	100.0	155,332	103.1
4	623,768	101.2	329,686	102.8	294,082	99.5	324,271	99.1	295,391	103.6	112,235	105.7	36,434	99.0	146,154	104.7
5	647,908	100.5	346,711	102.2	301,197	98.5	351,871	101.4	291,939	99.3	113,411	103.1	36,296	99.1	140,271	95.5
6	620,866	101.1	340,182	103.7	280,684	98.0	351,450	101.5	265,361	100.5	111,180	104.0	35,323	96.0	119,442	100.4
7	616,474	101.0	344,854	104.1	271,620	97.4	350,310	101.2	261,991	100.8	111,521	98.9	37,166	102.2	112,927	103.7
8	606,791	101.0	339,541	102.8	267,250	98.8	333,332	101.8	269,330	100.2	110,481	99.5	35,162	98.0	122,885	101.6
30年度累計	3,115,807	101.0	1,700,974	103.1	1,414,833	98.5	1,711,234	101.0	1,384,012	100.9	558,828	102.2	180,381	98.8	641,679	101.0

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、(独)農畜産業振興機構「指定生乳生産者団体別の受託販売生乳数量等」

バターの需給表

年度・月	生産量		輸入量				推定期末在庫量		推定出回り量							
	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	機構輸入量		その他の輸入量		機構在庫量		民間在庫量		(トン)	前年比 (%)		
					(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)				
平成25年度	64,301.5	91.7	3,655.4	38.2	3,482.3	37.1	173.1	103.5	17,316.7	73.8	0.0	-	17,316.7	73.8	74,109.7	98.4
26	61,651.9	95.9	13,226.5	361.8	12,931.1	371.3	295.4	170.7	17,833.4	103.0	0.0	-	17,833.4	103.0	74,361.7	100.3
27	66,295.5	107.5	13,130.9	99.3	12,743.3	98.5	387.7	131.2	22,050.0	123.6	0.0	-	22,050.0	123.6	75,209.8	101.1
28	63,583.5	95.9	12,062.2	91.9	11,776.7	92.4	285.5	73.6	24,481.5	111.0	0.0	-	24,481.5	111.0	73,214.3	97.3
29	60,086.5	94.5	9,429.5	78.2	9,116.2	77.4	313.3	109.7	22,985.5	93.9	0.0	-	22,985.5	93.9	71,012.0	97.0
29年 8	4,961.0	92.7	504.4	166.8	478.8	178.2	25.7	75.9	28,412.8	100.1	1,350.6	119.1	27,062.2	99.3	5,228.4	90.5
9	3,330.0	92.9	1,288.1	154.8	1,270.7	156.1	17.4	96.2	27,859.4	100.1	2,051.2	166.4	25,808.2	97.0	5,171.5	104.0
10	4,169.6	103.8	840.1	44.5	817.9	44.1	22.2	64.5	25,841.7	95.6	363.2	45.5	25,478.5	97.1	7,027.4	105.0
11	3,988.6	95.8	661.5	23.0	628.1	22.1	33.4	106.8	23,640.3	86.5	0.0	0.0	23,640.3	94.3	6,851.4	101.5
12	5,295.2	93.0	667.6	-	640.5	-	27.1	156.2	21,945.7	88.4	0.0	0.0	21,945.7	91.9	7,657.5	93.3
30年 1	5,913.9	98.1	140.2	915.9	106.6	-	33.7	220.0	23,553.3	88.5	0.0	0.0	23,553.3	91.8	4,446.4	104.2
2	5,029.4	103.0	283.3	813.5	264.4	-	18.9	54.4	22,925.7	90.6	0.0	-	22,925.7	90.6	5,940.3	95.7
3	6,330.1	104.1	1,366.4	-	1,345.0	-	21.4	151.1	22,985.5	93.9	0.0	-	22,985.5	93.9	7,636.7	109.9
4	5,985.9	104.7	1,078.5	105.5	1,061.5	106.6	17.0	63.8	24,610.8	94.5	0.0	0.0	24,610.8	98.3	5,439.0	104.9
5	5,803.9	93.8	2,202.8	207.0	2,166.9	208.1	36.0	156.6	26,090.7	93.1	0.0	0.0	26,090.7	96.5	6,526.8	124.0
6	4,822.7	99.4	2,519.2	453.4	2,491.2	474.2	28.0	92.3	26,551.4	93.7	0.0	0.0	26,551.4	97.2	6,881.2	134.6
7	4,687.0	108.8	1,613.3	155.7	1,594.4	159.1	18.9	56.0	26,792.1	95.1	0.0	0.0	26,792.1	98.6	6,059.6	110.4
8	4,931.8	99.4	1,266.9	251.2	1,218.3	254.5	48.7	189.6	26,958.3	94.9	0.0	0.0	26,958.3	99.6	6,032.6	115.4
年度累計	26,231.2	100.8	8,680.7	207.6	8,532.2	211.0	148.5	106.6	26,958.3	94.9	0.0	0.0	26,958.3	99.6	30,939.1	117.7

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、(独)農畜産業振興機構調べ

注1：機構輸入量は、検収受け入れの時点で整理している。

2：その他の輸入量は飼料用、沖縄用、学給用、航空機用（本邦と外国との間を往来するもの）および見本市販売用の輸入量を除く。

3：四捨五入の関係で端数は合わない場合がある。

バターの需給表(乳業メーカー等13社)

年度・月	生産量 ^{注2}						輸入量 ^{注3}						消費量(出回り量) ^{注2,注5}						月末在庫量													
	バラ		ポンド・シート等		家庭用		バラ		ポンド・シート等		家庭用		バラ		ポンド・シート等		家庭用		バラ		ポンド・シート等		家庭用									
	(ト)	前年比(%)	(ト)	前年比(%)	(ト)	前年比(%)	(ト)	前年比(%)	(ト)	前年比(%)	(ト)	前年比(%)	(ト)	前年比(%)	(ト)	前年比(%)	(ト)	前年比(%)	(ト)	前年比(%)	(ト)	前年比(%)	(ト)	前年比(%)								
平成25年度	58,975	-	16,004	-	26,864	-	16,106	-	737	-	737	-	0	-	0	-	65,653	-	20,940	-	28,143	-	16,570	-	16,357	-	11,876	-	3,432	-	1,049	-
26	59,061	100.1	18,470	115.4	25,096	93.4	15,495	96.2	7,432	1,008.1	7,432	1,008.1	0	-	0	-	65,771	100.2	26,250	125.4	24,306	86.4	15,214	91.8	17,081	104.4	11,528	97.1	4,222	123.0	1,330	126.8
27	63,514	107.5	20,267	109.7	27,055	107.8	16,192	104.5	5,003	67.3	4,834	65.0	169	-	0	-	64,439	98.0	23,637	90.0	24,671	101.5	16,131	106.0	21,159	123.9	12,992	112.7	6,776	160.5	1,392	104.6
28	62,101	97.8	19,732	97.4	25,902	95.7	16,466	101.7	4,508	90.1	4,450	92.1	57	33.9	0	-	64,379	99.9	22,451	95.0	25,313	102.6	16,614	103.0	23,389	110.5	14,723	113.3	7,422	109.5	1,244	89.4
29	59,920	96.0	17,804	90.5	25,375	97.8	16,741	99.8	4,022	88.4	3,950	88.0	72	125.2	0	-	65,422	101.1	22,233	99.3	26,434	104.0	16,755	99.0	21,909	93.7	14,244	96.4	6,435	87.4	1,230	98.8
29年 8	4,826	96.7	902	62.6	2,340	108.3	1,585	113.8	100	83.3	100	83.3	0	-	0	-	5,007	102.4	1,781	95.3	2,049	112.5	1,177	98.2	26,085	98.7	15,958	101.2	8,439	92.8	1,688	107.1
9	3,680	91.7	975	73.3	1,490	104.7	1,214	96.3	474	115.8	474	115.8	0	-	0	-	5,260	105.4	1,620	80.9	2,262	138.1	1,378	101.9	24,979	96.6	15,787	101.8	7,667	86.4	1,524	102.7
10	4,321	99.1	1,011	112.1	1,625	83.6	1,685	111.4	890	114.2	855	114.8	36	-	0	-	5,452	100.3	1,791	90.5	2,281	109.8	1,380	100.2	24,738	96.7	15,862	104.5	7,047	80.3	1,829	113.0
11	4,195	97.6	733	77.3	1,735	104.4	1,728	102.4	275	44.0	275	44.0	0	-	0	-	6,233	103.5	2,201	109.2	2,425	100.7	1,607	100.7	22,975	93.9	14,669	99.6	6,357	79.2	1,950	114.0
12	4,995	93.2	1,341	77.3	2,227	104.5	1,427	95.5	352	220.0	352	220.0	0	-	0	-	7,071	104.5	2,100	111.2	2,819	102.0	2,151	101.8	21,251	91.5	14,261	96.8	5,764	77.9	1,226	112.2
30年 1	5,986	100.4	1,963	96.7	2,544	106.8	1,479	95.5	0	-	0	-	0	-	0	-	4,535	104.2	1,831	118.1	1,670	93.0	1,034	102.6	22,703	91.4	14,394	94.6	6,638	83.2	1,671	102.3
2	4,925	103.1	1,588	118.7	1,927	96.0	1,410	98.5	0	-	0	-	0	-	0	-	5,620	106.0	1,931	119.6	2,040	98.9	1,649	101.4	22,007	90.2	14,050	93.5	6,524	82.3	1,432	99.5
3	5,740	105.4	1,925	98.7	2,480	118.4	1,334	95.4	668	-	668	-	0	-	0	-	6,504	100.8	2,399	106.2	2,569	98.8	1,536	96.4	21,909	93.7	14,244	96.7	6,435	86.7	1,230	98.9
4	6,082	104.8	2,082	88.9	2,684	122.1	1,316	104.3	402	-	402	-	0	-	0	-	5,187	97.9	1,760	101.9	2,196	93.0	1,230	102.1	23,206	97.1	14,968	97.6	6,923	95.4	1,316	101.1
5	5,872	96.7	1,950	83.1	2,622	102.6	1,300	110.8	699	121.6	699	121.6	0	-	0	-	5,045	107.6	1,912	122.3	1,829	96.4	1,304	106.0	24,733	95.7	15,705	94.1	7,716	97.5	1,312	105.3
6	4,982	99.8	1,279	76.7	2,408	113.3	1,294	108.1	856	219.6	838	236.9	18	49.7	0	-	5,258	104.7	1,878	112.7	1,982	95.7	1,398	108.9	25,312	96.6	15,944	93.5	8,160	101.9	1,208	104.3
7	4,755	108.4	1,102	109.1	2,275	106.9	1,378	110.6	625	209.3	625	209.3	0	-	0	-	5,083	107.4	2,097	129.4	1,901	95.6	1,085	96.5	25,609	97.9	15,574	93.0	8,534	104.7	1,501	117.2
8	4,881	101.1	1,136	126.0	2,436	104.1	1,309	82.6	459	460.1	459	460.1	0	-	0	-	5,156	103.0	1,970	110.7	2,007	97.9	1,179	100.1	25,793	98.9	15,199	95.2	8,963	106.2	1,631	96.6
30年度累計	26,571	101.9	7,549	91.3	12,425	109.5	6,597	102.1	3,041	223.1	3,023	227.8	18	49.7	0	-	25,728	104.0	9,617	115.0	9,915	95.6	6,196	102.9	-	-	-	-	-	-	-	-

資料：(独)農畜産業振興機構調べ

注1：国内乳業メーカー等13社。

2：生産量・消費量は、バラバターからポンド・シートなどに改裝した数量を含む。

3：輸入量は機構輸入分のみで、数量については売渡し及び検収月で計上している。

4：消費量は、「生産量」+「輸入量」-「在庫増減量」で算出。

5：四捨五入の関係で端数は合わない場合がある。

脱脂粉乳の需給表

年度・月	生産量		輸入量				推定期末在庫量				推定出回り量					
	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	機構輸入量		その他の輸入量		(トン)	前年比 (%)	機構在庫量		民間在庫量		(トン)	前年比 (%)
					(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)	(トン)	前年比 (%)
平成25年度	128,817.5	91.1	5,048.4	895.7	4,969.9	-	78.5	13.9	40,264.4	81.4	0.0	-	40,264.4	81.4	143,060.3	102.1
26	120,921.5	93.9	23,775.0	470.9	22,396.8	450.6	1,378.2	-	46,542.0	115.6	0.0	-	46,542.0	115.6	138,419.0	96.8
27	130,184.0	107.7	15,881.8	66.8	15,217.6	67.9	664.2	48.2	56,419.5	121.2	4,940.9	-	51,478.6	110.6	136,188.3	98.4
28	123,499.7	94.9	4,999.3	31.5	3,908.2	25.7	1,091.2	164.3	48,198.9	85.4	0.0	0.0	48,198.9	93.6	136,719.6	100.4
29	121,581.3	98.4	35,667.9	713.5	33,206.7	849.7	2,461.2	225.6	65,144.8	135.2	0.0	-	65,144.8	135.2	140,303.3	102.6
29年 8	9,592.9	97.4	1,564.4	-	1,493.8	-	70.6	101.3	54,314.7	97.7	1,229.5	-	53,085.2	95.5	11,794.7	104.7
9	7,074.0	96.5	3,585.7	213.1	3,185.7	192.4	400.0	-	53,370.3	100.7	1,990.1	120.2	51,380.2	100.0	11,604.1	100.2
10	8,916.5	112.6	1,658.7	902.7	1,506.9	949.2	151.9	607.4	52,106.1	104.5	1,990.1	109.7	50,116.0	104.4	11,839.5	104.9
11	9,001.7	102.0	1,630.3	-	1,448.2	-	182.1	743.2	50,267.7	105.3	419.6	23.0	49,848.1	108.6	12,470.3	113.7
12	12,341.7	94.3	6,452.3	-	5,816.3	-	636.0	-	56,089.3	113.1	0.0	0.0	56,089.3	117.7	12,972.4	114.1
30年 1	11,465.6	102.8	3,701.2	-	3,693.4	-	7.8	89.1	62,038.4	122.7	0.0	0.0	62,038.4	127.6	9,217.5	90.3
2	9,666.6	102.6	3,223.5	-	2,946.5	-	277.0	148.2	64,281.9	130.7	0.0	0.0	64,281.9	136.0	10,646.7	97.1
3	12,273.2	99.7	2,357.5	472.9	2,294.8	-	62.7	12.6	65,144.8	135.2	0.0	-	65,144.8	135.2	13,767.9	99.8
4	11,666.0	100.2	477.2	57.4	420.3	62.3	56.9	36.2	68,318.7	135.5	0.0	-	68,318.7	135.5	8,969.2	87.5
5	11,046.4	95.6	496.8	38.9	460.5	41.2	36.3	22.7	68,986.8	133.8	0.0	0.0	68,986.8	135.9	10,875.1	93.2
6	9,390.9	99.4	614.0	13.5	485.4	11.1	128.7	72.3	67,847.5	125.6	0.0	0.0	67,847.5	130.4	11,144.3	96.2
7	8,649.9	100.5	1,916.8	39.8	1,907.0	41.1	9.8	5.5	66,856.0	121.7	0.0	0.0	66,856.0	123.1	11,558.2	92.6
8	9,581.3	99.9	398.0	25.4	351.5	23.5	46.5	65.9	65,114.8	119.9	0.0	0.0	65,114.8	122.7	11,720.4	99.4
年度累計	50,334.5	99.0	3,902.8	29.9	3,624.6	29.4	278.3	37.4	65,114.8	119.9	0.0	0.0	65,114.8	122.7	54,267.2	93.9

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、(独)農畜産業振興機構調べ

注1：機構輸入量は、検収受け入れの時点で整理している。

2：その他の輸入量は飼料用、沖縄用、学給用、航空機用（本邦と外国との間を往来するもの）および見本市販売用の輸入量を除く。

3：四捨五入の関係で端数は合わない場合がある。

平成30年度の脱脂粉乳輸入・売渡スケジュール

(単位:トン)

品目	区分	入札日	入札方式	(入札数量)	落札数量	内容	受渡期限	平成30年度												平成31年度					合計	
								4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月以降		
脱脂粉乳	29年度入札	遅延分						420.3	0.0	37.8														458.1		
	29年度輸入・売渡数量計																									
	30年度入札	2月22日	SBS方式	5,000	2,702.0	特A・A	30.7.31																		2,702.0	
		4月26日	SBS方式	4,000	1,279.4	特A・A	30.9.28	入札	160.9	439.6	1,799.7	0.0	213.7	88.2											1,279.4	
		6月21日	SBS方式	4,000	3,229.4	特A・A	30.11.30				入札														3,229.4	
		8月30日	SBS方式	6,000	3,148.6	特A・A	31.1.31					入札													3,148.6	
		10月25日	SBS方式	6,000		特A・A	31.3.29																		6,000.0	
		12月18日	SBS方式	6,000		特A・A	31.5.31																		6,000.0	
		2月	未定	未定			未定																		0.0	
	30年度輸入・売渡予定数量計 (1月輸入判断分)				27,000	10,359.4																				
	売渡数量(機構→売渡先)								420.3	460.5	485.4	1,907.0	351.5	549.9	567.0	2,927.5	0.0	3,148.6	0.0	6,000.0	0.0	6,000.0	0.0	0.0	0.0	22,817.5
	累計								420.3	880.8	1,366.1	3,273.1	3,624.6	4,174.4	4,741.4	7,668.9	7,668.9	10,817.5	10,817.5	16,817.5	16,817.5	22,817.5	22,817.5	22,817.5	22,817.5	22,817.5

注: 赤字は未確定値(欠減などで売渡数量は変動することに留意が必要)

輸入バターの最終需要者までの流通販売計画

(平成30年4月～6月累計)

(単位:トン、%)

販売先(業態)	数量	割合
自社使用	452.6	16.1
乳業・アイスクリーム	114.1	4.0
はっ酵乳・乳酸菌飲料	0.0	0.0
加工油脂	741.9	26.3
製パン	708.4	25.1
製菓	641.2	22.8
飲料	0.0	0.0
調理食品	50.4	1.8
外食・ホテル	90.0	3.2
小売	20.0	0.7
合計	2,818.7	100.0

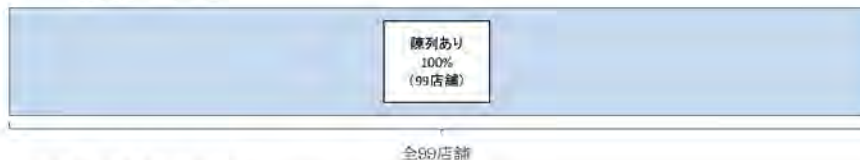
注:平成30年4月～6月実施分のバター売渡入札後に、落札者から提出された流通販売計画を取りまとめたものです。

2018年10月第1週 バター店頭調査結果

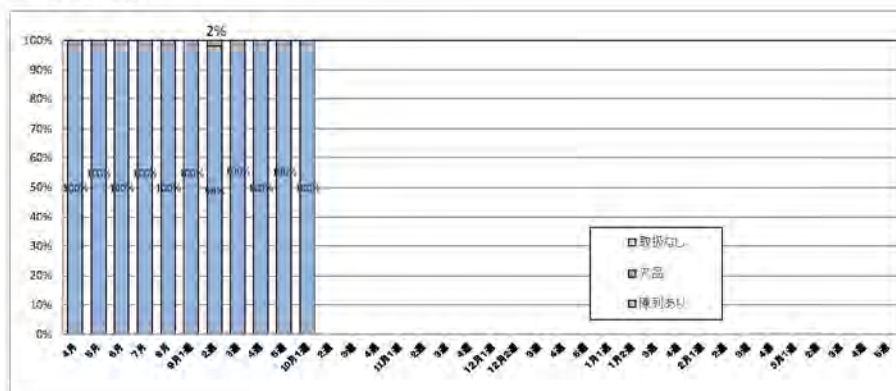
1. 調査方法
調査員が店舗を訪問し、店頭における対象商品の陳列状況及び購入制限などの告知・表示^{注1}状況を調査。
2. 対象商品
乳業大手4社等のナショナルブランド（NB）バター（加塩、無塩、ミニ、カップ等）15品。
プライベートブランド（PB）バター主要5品^{注2}
3. 調査店舗数
京浜60店+京阪神39店 = 99店^{注3、注4}
4. 調査日
10月5日（金）～10月7日（日）^{注5}

注1 購入制限の告知・表示例は、「お一人様1点限り」などを指す。
 注2 対象商品は、国内で流通する主要な20品目のバター（主に200グラム以下/個）。
 注3 調査店舗数は、改装中の店舗が1店舗あったことから99店舗となっている。
 注4 調査店舗は、スーパーマーケットが対象。
 注5 調査日は、調査期間のうちいずれか1日で、調査時間は不定期。

5. 調査結果
(1) 対象商品の陳列状況

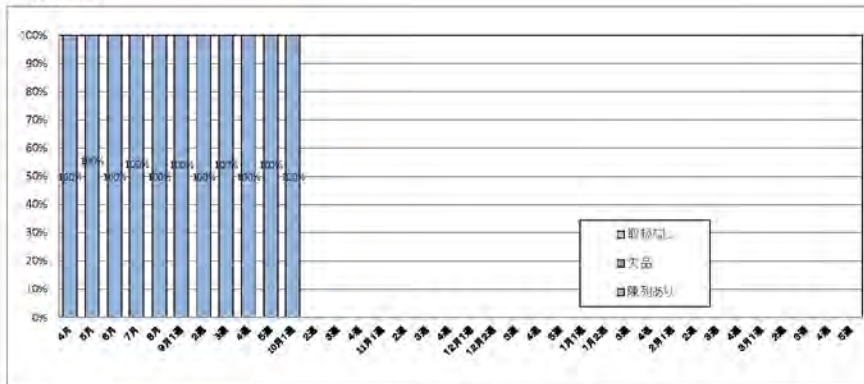


陳列あり…対象商品の陳列あり
 欠品…対象商品の取扱（棚）はあるが、陳列がない
 取扱なし…対象商品の取扱（棚）がない
 （参考：推移）

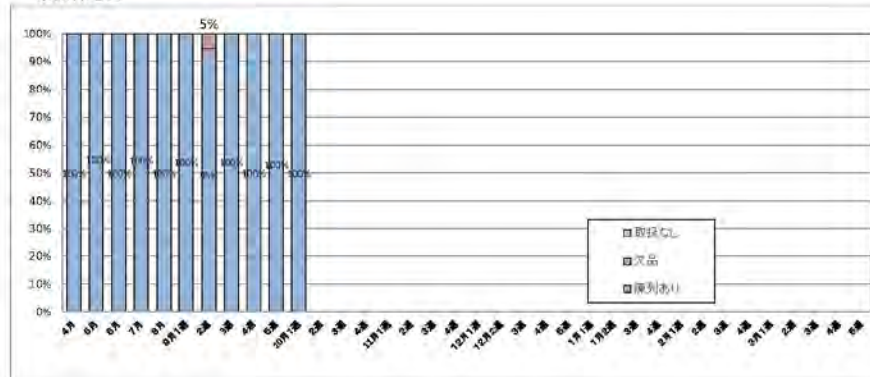


(参考：エリア別推移)

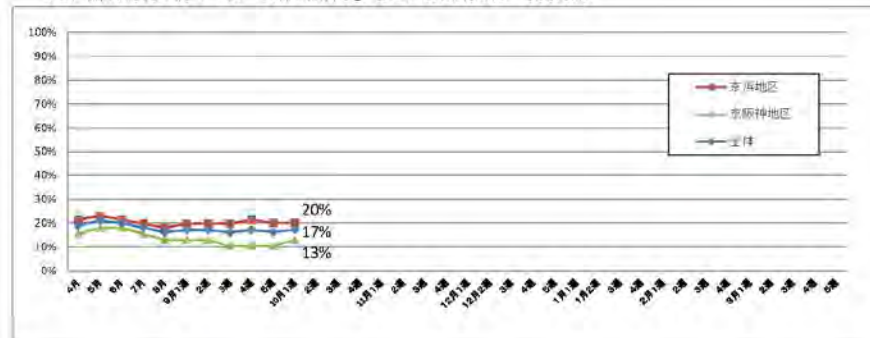
京浜地区



京阪神地区



(2) 購入制限(例:「お一人様1点限り」など)の店頭告知・表示状況



・本資料は、ソフトブレンフィールド株式会社へ委託調査を実施し、集計した数値をまとめたものである。
 ・本情報は、情報提供を目的とするものであり、提供した情報の利用に関連して、万が一、不利益が被る事象等が生じたとしてもalicは一切の責任を負いません。

小売店におけるバターの販売状況（10月1日～10月7日）

本資料は、KSP-SP社のPOS情報サービスによる。

1店舗当たり販売重量は、全国の小売店（スーパーマーケット）の販売データを集計しており、調査対象店舗数は約850店である。本資料のバターとは、発酵バター、果実等を含有するもの、その他バターの類似品等を含まない。

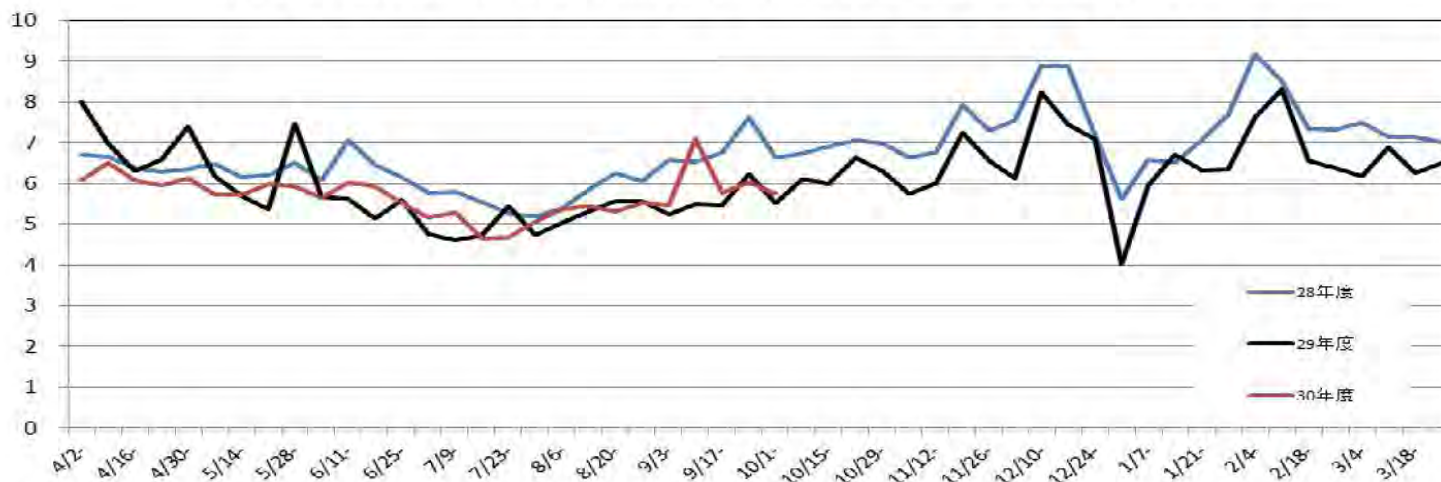
日付はデータ観測期間（月曜～日曜）の初日を表示しており、現在表示の日付は全て平成30年度に合わせている。

1店舗当たり販売重量

1店舗当たり販売重量については、5.75kg（前年同期104.0%、+0.2kg）となった。

(kg)

1店舗当たりバター200グラム(加塩)の平均販売重量(調査対象店舗のみ)



<利用上の注意>

平成29年度のバターの販売重量は、日本経済新聞社のPOS情報サービスに基づく調査対象店舗の販売実績（平成27～29年度）を掲載していましたが、平成30年度はKSP-SP社のPOS情報サービスに基づく調査対象店舗の販売実績（平成28～30年度）を掲載しております。

なお、これまで掲載していた平成29年度までのデータは下記URLのページに掲載しています。

【過去データのページURL】：https://www.alic.go.jp/r-nyuseihin/raku01_000368.html

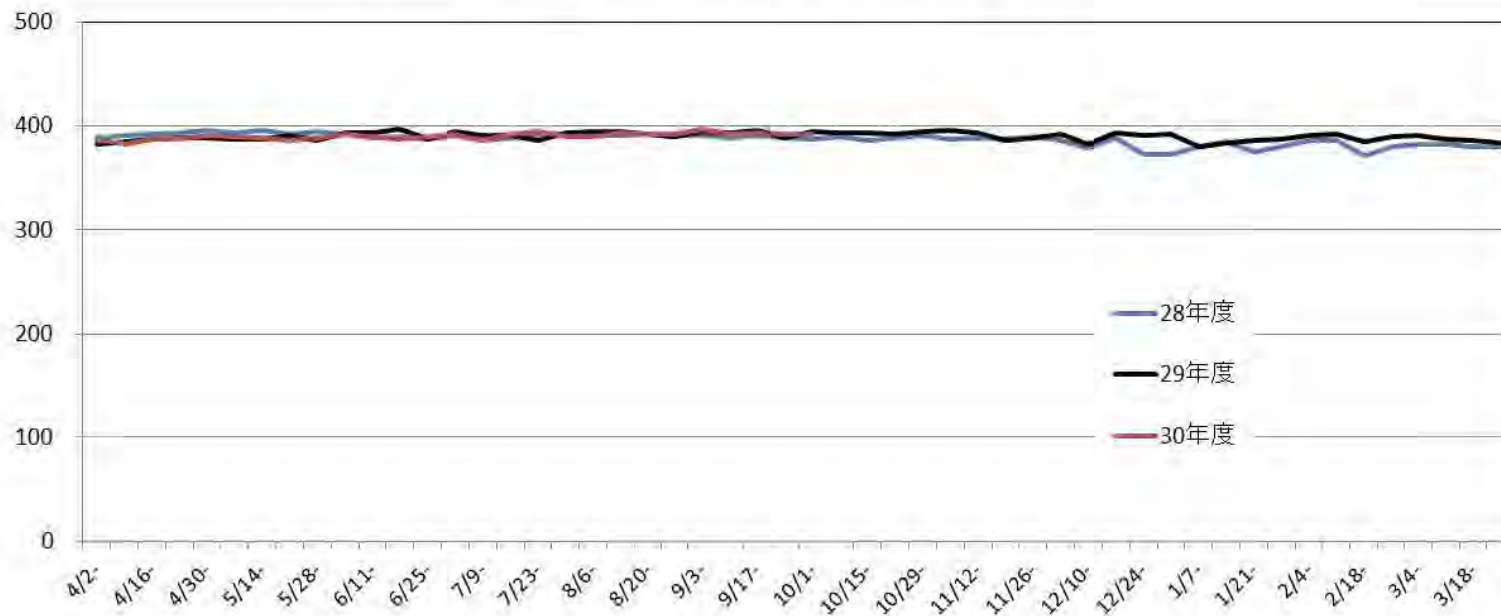
平均販売価格

平均販売価格^(注)については、392.2円/個（前年同期比99.5%、1.9円安）となった。

注：平均販売価格は、調査対象としている箱に入った200グラムの加塩バター製品、それぞれの平均販売価格及び期間中の販売個数から算出した加重平均である。価格は消費税を含まない。

(円/個)

バター200グラム(加塩)の平均販売価格(調査対象店舗のみ)



<利用上の注意>

平成29年度のバターの200グラム(加塩)販売価格は、日本経済新聞社のPOS情報サービスに基づく調査対象店舗の平均販売価格（平成27～29年度）を掲載していましたが、平成30年度は、K S P - S P社のPOS情報サービスに基づく調査対象店舗の加重平均価格（平成28～30年度）を掲載しております。

なお、これまで掲載していた平成29年度までのデータは下記URLのページに掲載しています。

【過去データのページURL】：https://www.alic.go.jp/r-nyuseihin/raku01_000368.html

平成30年度のバター及び脱脂粉乳の輸入枠数量の検証（10月）

平成30年10月
農林水産省生産局

1 バター及び脱脂粉乳の国家貿易における輸入枠数量

1月に30年度全体の輸入枠数量（バター：1万3千トン、脱脂粉乳：2万7千トン）を示し、5月及び9月に検証を行うこととしている。

しかし、北海道胆振東部地震が発生したため、9月の検証を10月に延期した。

2 平成30年度の需給見通し

(1) バターについては、30年8月末の在庫は2万7千トンと、前年同月比▲5.1%であるが、29年度から毎月、入札を実施することにより、実需者は、需要に応じて計画的に輸入できるため、従前よりも少ない在庫で安定的にバターを仕入れることが可能となっている。

年末需要に向けたバターは既に手当てされており、今後とも需給は安定する見込み。

(2) 脱脂粉乳については、30年8月末の在庫は6万5千トン（対前年比+19.9%）と十分に在庫があること、今年度から隔月で入札を実施していることから、今後とも需給は安定する見込み。

3 バターの輸入枠数量の検証

過去6年間の各月の最小生産量と最大消費量を用いて、30年9月から31年3月までの各月末の在庫量を以下のとおり試算。

なお、地震の影響を加味するため、地震発生約1週間後の生乳生産減少率（▲4.4%）を各月の生産量に乗じた。

○次の試算を30年9月から31年3月までの各月に実施

【9月の試算例】

$$\begin{aligned} \text{9月末の在庫量} &= \text{8月末の在庫量} + \text{過去6年間の9月の最小生産量} \times 0.956 \\ &\quad - \text{過去6年間の9月の最大消費量} + \text{9月の予測輸入量} \end{aligned}$$

試算の結果、各月末の在庫量は、必要在庫水準（翌月の最大消費量の2.5倍）を満たすため、輸入枠数量1万3千トンは変更しないこととしたい。

〔 なお、新しい飼料に切り替わる10月以降の北海道の生乳生産の状況を踏まえ、1月に来年度の輸入枠数量を検討する。 〕

4 脱脂粉乳の輸入枠数量の検証

過去6年間の各月の最小生産量と最大消費量を用い、震災の影響も加味し、バターと同様に30年9月から31年3月までの各月末の在庫量を試算。

その結果、各月末の在庫量は、必要在庫水準（実需者の希望最大数量6万トン）をほぼ満たすとともに、本年度8月までの落札率が5割程度と低いことを踏まえ、輸入枠数量2万7千トンは変更しないこととしたい。